

2020年3月7日

世界女性祈りの日

【説教】

罪に汚れた世界で神聖に生きる

Sermon: Virtuous Living in an Un-virtuous World

メロディーメイソン

Melody Mason

著者について

メロディーメイトソン（メロディアスエコーとしても知られています）は、イエスに情熱を注ぎ、人々がイエスと共に生き生きと歩く手助けすることに熱心です。彼女はベストセラーの本である『もっと求める大胆さ：答えられた祈りへの神聖な鍵』の著者であり、すでに10の言語で入手することができます。この国際女性ミニストリーの祈りの日シリーズで使用された資料の多くは、彼女の間もなく出版される新しい本『すべての言葉で生きる大胆さ：豊かな生活への神聖な鍵』から引用されました。

メロディーは現在、世界総会の祈りの一致における取り組みをコーディネートし、世界中にある教会のリバイバルおよび改革における構想の教材開発を支援しています。メロディーについては、ホープチャンネルの複数のプログラムと3ABNで紹介されており、彼女の証とセミナーはYouTubeの至る所で見ることができます。メロディーは執筆、ハイキング、自転車に乗ること、自然の中で時間を過ごすこと、そして可能な限り海外伝道でボランティアをすることが大好きです。彼女はメリーランド州シルバースプリングに住んでいます。

説教

罪に汚れた世界で神聖に生きる

[そして十字架を背負う召し]

* 説教の聖句は口語訳から引用

(イントロ スライド1 → スライド2)

イントロダクション

1994年、ルワンダの国は恐ろしい集団虐殺を経験し、100万人以上が死亡しました。これらの内、約10万人がセブンスデー・アドベンチスト教会の教会員でした。

紛争の最高潮の間、ある部族は他の部族を根絶しようとしていました。攻撃を受けた部族は、教会に避難すれば殺されないだろうと考えて、安全のために教会に急ぎました。これらの教会の一つに、アドベンチストのグループが共に集まりました。

ドアは施錠され、全員がお互いにしがみつき、安全を祈りました。まもなく、なたで武装した暴徒はドアを突破し、そこにいたすべての人、牧師さえも殺しました。それは恐ろしい虐殺でした。逃げることはできたのはわずかな人だけでした。

数日後、殺人者たちが立ち去った後、生き残った人たちが死体を集めて集団墓地に埋めました。遺体を拾い上げると、1人の女性の心臓がまだ鼓動しているのに気がつきました。彼らは彼女の命を救いたいと願いながら病院へ急ぎました。彼女の生きるための戦いは非常に厳しいものでしたが、彼女は生き残りました。その後3年間、入退院を繰り返しました。最終的に、彼女は新しい生活を立て直し始めました。

虐殺で殺されたセブンスデー・アドベンチストの牧師の妻として、マリーは夫の死を無駄にしたいと決めました。また、彼女は苦しみと憎しみの中で生きるのではなく、彼女を深く傷つけた人々に許しを与えると決めました。

(スライド 3) マリーの証

許しの実践

マリーの証

マリーはローマ人への手紙を読みました。「もしあなたの敵が飢えるなら、彼に食べさせ、かわくなら、彼に飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃えさかる炭火を積むことになるのである。」（ローマ人への手紙 12：20）

殺人者の数人が捕らえられ、近くの刑務所にいたことを知ったマリーは、彼らに会いに行き、食べ物を差し入れました。時間が経つにつれて、彼女はその刑務所の「母親」のようになり、囚人に食物と毛布を定期的に運ぶようになりました。彼女はまた囚人たちと聖書の勉強も始めました。

ある日、囚人たちのお世話をしていると、ルクンドという名前の若者がやって来て、彼女の足元に崩れ落ち、彼女の足にキスをし始めました。「マダム、私を覚えていますか？」と彼は尋ねました。マリーは彼の顔を認識し、固唾（かたず）を飲み込みました。夫を殺した男でした。それに、彼女を殺そうともしました。

「マダム、私を許して下さいますか？」彼は涙を浮かべてお願いしました。

彼女は優しくこの若者を床から引き上げて抱きしめました。「もうずっと前にあなたを許したのよ。憎むことをしないと心に決めたの。恨み辛みで私の年月を無駄にはしないわ。あなたのことはもう許したのよ。」

その後6ヶ月間、マリーはルクンドと聖書を学びました。その結果、ルクンドはバプテスマを受ける決心をしました。バプテスマの日、彼はすべての囚人たちの前で、自分の罪を告白しました。美しく感動的でした。マリーはそれに立ち会いました。

数年後、ルワンダ政府はルクンドに恩赦を与え、彼は釈放されました。しかし、ルクンドの家族は、父親も母親も皆虐殺で殺されており、彼には行く場所がありませんでした。釈放された後、彼はマリーの家に歩いて行き、彼女のドアをノックしました。

「私は一人ぼっちで、どこに行けばいいのかわかりません。私はどうすればいいですか？」と彼は尋ねました。彼女は微笑み、「私も一人よ！ あなたを私の養子として迎え入れましょう。そして、イエス様が来られるのを待ちましょう。それから一緒に私たちが愛した人達と再会するのよ。」

(スライド 4—引用)

キリストの実物教訓に、このように書かれています。「憐れみに満ちた最後の光、世界に伝えるべき最後の憐れみの使命は、神の愛の啓示である。神の子らは、神の栄光をあらわさなければならない。彼らは、その生活と品性において、神の恵みが彼らのためにどんなことをなしたかを表さなければならない。」（『キリストの実物教訓』）

おそらくマリーの行動は、イエス様の愛を表現した極端な例に見えるかもしれませんが、これは神様が私たち一人一人に喜んで応じるよう呼びかけているキリスト教の教えに過ぎないのです。考えられないことです！ 素晴らしいことです！超自然的です！そして、聖霊に満たされた人を除けば、人間的には不可能なことです。

(スライド 5—聖句)

今朝の聖書朗読は、ペテロによる第二の手紙 1：3-4 です。もう一度見てみましょう。

「いのちと信心とにかかわるすべてのことは、主イエスの神聖な力によって、わたしたちに与えられている。それは、ご自身の**栄光と徳**とによって、わたしたちを召されたかたを知る知識によるのである。また、それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである。」

栄光と徳によって召されるとはどういう意味ですか？ それが**罪に汚れた世界で神聖に生きる**ことを意味するのだと確信しています。それは、神様の愛が私たちの心の中でくださったことを、私たちの生き方で示すことを意味するのです。

(スライド 6—イエスの奉仕)

クリスチャン生活の逆さまの模範

イエスの弟子の模範

私たちは福音書から、イエス様は世の中がすすめる生き方とは逆さまとなるような弟子のモデルを信者に与えていることを発見します。イエス様の模範は、成功のための典型的な世俗的ルールに逆行しています。

幾つかの例を紹介します：

- 成功を望むなら、常に一番になるよう励みなさいと、世間は言います。
- 神の国では、あとの者は先になり、先の者はあとになるであろう、とイエスは言われます。（マタイによる福音書 20:16 参照）
- あなた自身と、あなただけの必要を大事にしなさい、と世間は言います。
- 他の人の必要を大事にすることがすべてである、とイエス様は言われます。（マタイによる福音書 20:28 参照）
- 自分勝手に満足するよう生きなさい、と世間は言います。
- 自分自身と利己的な喜びに死に、他の人のために生きる時です、とイエスは言われます。（マタイによる福音書 16:24 参照）
- 皆に見えるように、そして称賛されるように良いことをしなさい、と世間は言います。
- 私たちの動機が人に見られるのであれば、天で報いを受けることはない、とイエスは言われます。実際、私たちが秘密に、そして注意を引こうとせずに行うことが、最も重要なことだと言われます。
- 優位に立てるよう、金持ちで有名な人と友達になりなさい、と世間は言います。
- これらの最も小さい者に仕えることの意味を学びなさい、御国において彼らは最も大きい者であるから、とイエスは言われます。（マタイによる福音書 25:45 参照）
- 今宝を積み上げて、できるだけ多く手に入れることに集中しなさい、と世間は言います。
- でもイエスは言われます。今あなたが積み上げた一時的な宝は、さびて滅びるであろう。唯一残る宝は、あなたが与えるものです。（マタイによる福音書 6:19, 20 参照）

もしこれらの原則が難しいと思う場合、次の命令は本当に強烈です。真のキリスト教は、神の栄光を示す壮大な見せ物となるのです。

- 「目には目を、歯には歯を」や「隣人は愛するが、敵は憎め」、と世間は言います。
- でもイエスは言われます。敵を愛しなさい。もし、あなたの頬を打つなら、ほかの頬をもむけてやりなさい。（マタイによる福音書 5:38-44 参照）

ルカによる福音書に記録されているこの命令を、更によく見てみましょう。

のろう者を祝福し、はずかしめる者のために祈れ。あなたの頬を打つ者にはほかの頬をも向けてやり、あなたの上着を奪い取る者には下着をも拒むな。あなたに求める者には与えてやり、あなたの持ち物を奪う者からは取りもどそうとするな。人々にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそのとおりにせよ。自分を愛してくれる者を愛したからとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、自分を愛してくれる者を愛している。自分によくしてくれる者によくしたとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でさえ、それくらいの事はしている。また返してもらうつもりで貸したとて、どれほどの手柄になろうか。罪人でも、同じだけのものを返してもらおうとして、仲間に貸すのである。しかし、あなたがたは、敵を愛し、人によくしてやり、また何も当てにしないで貸してやれ。そうすれば受ける報いは大きく、あなたがたはいと高き者の子となるであろう。いと高き者は、恩を知らぬ者にも悪人にも、なさけ深いからである。あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。（ルカによる福音書 6:28-36）

（スライド7ーハグ）

このようにキリストの愛を模範にしたら、もうすぐ働きが終わり、イエス様が私たちに迎えに来て下さると想像してみてください。イエス様は言われます。「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」（ヨハネによる福音書 13:35）

しかし、私たちは自然にこのように生きて愛することが出来ません。そして、このように友人や教会のメンバーを愛することさえできないのに、敵を愛することについて話す

のは難しいことです。私たちは、聖霊の内住が必要です。キリストから離れては、私たちは何事をもすることができません。

(スライド 8—愛そのものであるお方が私たちの内に住まわれるよう祈ろう)

私たちは平安と喜びを祈り求めますが、平安と喜びの神様が聖霊を通して私たちの内に住まわれるよう祈るべきです（ヨハネによる福音書 14:27、15:11）。私達はもっと愛せるように祈りますが、愛そのものであるお方が私たちの内に住まわれるよう祈るべきです（ヨハネによる福音書 15:10）。私たちはもっと良いクリスチャンになれるよう祈りますが、御旨の通り聖霊を通してキリストご自身が私たちの内に住んで下さるよう祈るべきです（エペソ人への手紙 2:22）。

(スライド 9—トム証)

ほかの類をもむけてやりなさい

トムの証

他のお話を紹介します。トムという男性のお話です。

トムは、福音伝道がなかなか難しく信仰のため多くのクリスチャンが迫害されている、奉仕の難しい地域のバイブルワーカーでした。

あるとき、トムと彼の奥さんはバイクの事故にあいました。彼らが道路の脇に止まっていた時に、他のバイクがやってきて彼らをはねたのです。感謝すべき事に、両方のバイクは破損しましたが誰も大けがをせずすみしました。彼らをはねた男性は酔っていて、そして近くの村の村長でもありました。

トムはお金をたくさん持っていたわけではありませんが、この事故のことで怒る代わりに、村長に聞きました。「この問題をどのように解決しましょうか？」

「わしのバイクをなおせ！」と村長は荒々しく答えました。

言い争うこともなく、トムはバイクの修理代を払いました。でもそれだけではありません。彼は、村長を訪ね、彼と彼の家族を助ける方法を探し始め、更に彼の畑を耕すことを申し出ました。村人たちが気付いていながら助けることの出来なかった村長と家族のために、トムはたくさん良いことをしました。

「村長はとても無礼な人だ！」ある日誰かがトムに言いました。「何故彼にそんなに親切にするのか？ 村長の友達になれた人など誰もいないのに！」

「なぜなら、私はイエス様を愛していて、イエス様の愛を他の人と分かち合いたいです。」とトムは答えました。

その後直ぐに、数人の村人がイエス様についてもっと教えて欲しいとトムにお願いしました。それから間もなく、トムは村人達と聖書の学びを始め、何人かはバプテスマを受けました。驚くべき奇跡は、ここが以前福音伝道のために入ろうとした地域内の村であったことです。でも、彼の努力はうまくいったことがありませんでした。今、村長への親切を通して、神様が突破口を開いてくださいました。

考えてみて下さい。もし事故の時トムが他の多くの人たちと同じような態度をとっていたら、キリストのためにこの村に入ることはなかったでしょう。想像してみてください、たとえ酷い目にあったとしても、もし更に努力してこのような無欲な謙遜さでお互い奉仕をしたら、今日のこの世界、私たちの教会でさえも、どれだけ違っていたでしょう。

(スライド 10—引用)

ミニストリーオブヒーリングからお読みしましょう。

「わたしたちに対する実際の、あるいは仮定の不正行為によって、自分の精神をいらだたせるわけにはいかない。自我は、わたしたちの最も恐るべき敵……である。また勝つことができた他のどんな勝利に比べても、自己に打ち勝つ勝利ほど尊いものはない。

感情をたやすく害してはならない。わたしたちは自分の気持ちや名声を守るために生きているのではなく、人を救うために生きなければならない。」（『ミニストリーオブヒーリング』41章 不正な取扱いに対する忍耐）

(スライド 11—引用)

覚えてください。

「私たちが生涯かかってなすことができる以上のことを主は1時間で成し遂げることがおできである。神の民が全的に献身しているのを主がご覧になるとき、偉大な働きが短時間でなされること、真理の使命がこれまで宣言されたことのない地の暗い場所に届けられるのだということを申し上げておきたい。」

5th Manuscript Releases, p. 347.3

(スライド 12—赤ちゃん)

罪に汚れた世界で神聖に生きる

聖書によると、私たち一人一人は、神の愛を死にゆく世界に伝える聖なる目的のために、任命され、指名され、力を与えられています。これを行うためには、聖霊に満たされ、内と外の両方で人生を送らなければなりません。それは、高潔で名誉があり、聖なる召しと一致しています。私たちがどう扱われても構いません。私たちを取り巻く影響は問題ではありません。私たちは信仰深くあるようにと招かれています。「あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」(ピリピ人への手紙 2:15)

(スライド 13—引用)

「神の徳を神の子らに与えることが神の栄光である。」

この種類の高潔な人生とは正確にどのようなものでしょうか？ そうですね、イエス様のようなものです！ イエス様御自身が御霊の実でした。

ガラテヤ人への手紙 5:22, 23 に、「御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制であって」とあります。

いいですか、もし神の霊が私たちの内に住まわれていたら、御霊の実が出て来るでしょう。一つだけでなく、全部の実がです！

罪に汚れた世界でどのように神聖に（高潔に）生き愛するかをイエス様が例を通して示してくださいました。

（スライド 14—引用）

ホワイト夫人はこのように書いています。

「キリストの生涯は人間がもし神の性質を持つならば、一体何ができるかを示した。キリストが神からお受けになったものはみな、わたしたちも持つことができるものである。だから求めて受けることにしよう。ヤコブのような不屈の信仰と、切に求めてやまぬエリヤの精神をもって、神の約束なされたことが全部与えられるように求めなさい。」（『キリストの実物教訓』12章の最後の方）

これこそ私たちの日ごとの祈りとなるべきですね！ 神様がこんなにたくさん与えて下さるのに、何故私たちは少ないもので満足できるでしょうか？

これは強い意思の力や優れた自制心の戦いではないことを覚えておいて下さい。これは正に心の戦いなのです。私たちは心を誰に明け渡しているのでしょうか？

（スライド 15—心）

残念なことに、世間は私たちの人生とは自分の最大の利益を追求することが全てだと教えてきました。私が最も満足できて楽しめるものは何でも正しいことだと人々は言います。でも、御言葉によればそれは危険な考えです！

私たちの心が望むものは常に正義や正しい考えではありません。「心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。」とエレミヤは叫びました（エレミヤ書 17：9）。自己に目を向けて、心に従うとき、決して安全とは言えません。

「主よ、私の心を変えてあなたの心のようにしてください。」と絶えず祈り続ける必要があります。

（スライド 16—十字架）

「自己との戦いは最も大きな戦いです。自己に打ち勝ち、神のみ心に全く従うには戦いを通らねばなりません。しかし神に服従しなければ、魂が聖化されることはないのです。」（『キリストへの道』 献身）

（スライド 17—聖句）

十字架を負うようにとの召し

ルカによる福音書 9:23, 24 で聖書はこう言っています。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう。」

一見、この十字架を負うというのは魅力的には見えないでしょう。しかし、一般的な考えに反して素晴らしい事実は、十字架を背負ったとき、天国への旅の妨げになっている障害を取り除こうとされる神の手が自由に働けるようにすることなのです。ですから、世間が痛みを伴う犠牲と考えるかもしれないものは、本当は私たちにとって天からいただく益なのです。

（スライド 18—引用）

神のために、真の犠牲を払うように要求されることは決してない。神は当然ささげるべきものを数多く要求されるが、それを実行することによって、わたしたちは、天に行く途上の妨害となるものを捨てているにすぎない。良いものを手離すことを要求された時さえも、それはわたしたちのために、さらに益になるようなことをなさっておられるのだと確信してよい。（『ミニストリーオブヒーリング』 40章 最善である神の計画）

おそらくあなたは、人生で克服出来そうにない秘密の罪や霊的なとりでと戦っています。賢い人は言いました。「鍵は、あなたが戦いにどれほど献身しているのかではなく、あなたが神にどれだけ降伏しているのかということです」。

「イエスにあって、ついに勝利」

（スライド 19—白旗）

信者にとって、降伏の白旗を振るということは、「私はこの戦いに負けた！」という意味ではなく、実際には、「イエスにあって、ついに勝利した！」という意味です。

私たちがイエス様に自分を捧げ、イエス様の十字架を背負ったとき、何か素晴らしいことが起こります。十字架が重荷になるのではなく、「この十字架を持ち上げると…（実際には十字架が）私たちを持ち上げる」ことを発見します。私たちが考える強さをイエス様に明け渡し、イエス様の力に十字架の重荷を背負っていただくようにしなければなりません。私たち自身の強さは、無力で役に立ちません。この役に立たない強さをイエス様にあずけた瞬間、イエス様は私たちに勝利を与えてくださいます。

(スライド 20—引用)

「あなたが全的に神様に屈服するとき、あなたがイエス様の上に落ちて砕けると
き、いまだかつて得られなかった勝利と喜びを得て報われるでしょう。」（『福音
伝道者』 英語 p373 *Gospel Workers, p. 373*）

エレン・ホワイトは描いています、「あなたがイエス様の上に落ちて砕けるとき」。私たちがイエス様の上に落ちて砕けるとはどういう意味でしょうか。

(スライド 21—非常に貴重な塵)

非常に貴重な塵

砕けた心というのは、私たちが神様に捧げ得るものの中で本当に最も美しい捧げもので、神聖な犠牲です。実に私たちが捧げるべき唯一の犠牲です。聖書はこのように言っています。「神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心をかろしめられません。」（詩篇51:19）

詩篇 51:19 に出てくる「悔いた」という言葉の意味は、ヘブル語で「砕く、粉々にする、壊す、押しつぶす、塵のようにする、完全に破壊する」といった意味のある *dākâh* という言葉からきています。

考えてもみてください！ もし何かが単純に壊れただけなら、糊でくっつけて元通りにすることができるでしょう。でも塵を糊でくっつけることはできません。それこそが私たちの実際の姿なのです。塵…壊れた…粉々になった器！

エレン・ホワイトはこのように書いています。「なんといい気高い特権でしょうか。塵灰の有限な存在がキリストの中保を通して、至高のお方の謁見室への入室を許されるのです。」

そして神の謁見にあずかることができるだけでなく、塵こそが神様が御自身の奇跡を働かれるときに繰り返しお用いになる道具なのです。

はじめに神様はエデンの園に塵で木や植物を植え、成長させて果実を実らせました（創世記 1:11）。それから、神様はちりでの上ない作品である男と女を造り、生めよ、ふえよと命令されました（創世記 2:7; 1:28）。

ここでちょっと待ってください。命の息、イエス様の血、聖霊の力を除いて、私たちの全ての最高の実、労苦、働きがちりに過ぎないことを私たちは認識していますか？ それでも、私たちはしばしばちりに栄光を帰すほど高慢になります。

感謝すべき事に、罪ののろいがこの世に降りかかった後でさえ、イエス様はまだそのちりを気に掛けて下さいました。人間のちりの中での働きを続けるためにこの世に戻ってきて下さいました（サムエル記上 2:8）。彼はちりを使い盲人の視力を回復させましたが（ヨハネによる福音書 9:5-6）、今日私たちの霊的視力を回復させるためによく使うのは、ちりと人生に砕けた心です。彼は水とちりを混ぜて粘土を作るのが得意です。そしてそれは陶器師であられる神の手の中でこねられる粘土（泥）になることで、私たちが彼の創造されたあるべき形になるのです（エレミヤ書 18:6）。

（スライド 22ー引用）

ある作家が雄弁に書いているように、「ちりは終わりを表す必要はありません。ちりは通常新しい（命）が始まるために存在しなければならないものなのです。」

そうです。ちりは愛する神様の御手のうちであれば、実に美しくなります。そして屈服したちりは貴重なものです！ 実際、このように言われています、

「神の民がすべての障害物を取りのけて道を切り開くことほど、サタンが恐れることはありません。そうすれば、主は衰える教会に御霊を注ぎ出すことができます。後の雨が降り、あらゆる汚れから清められたすべての魂が神様の祝福で満たされます。」 *Last Day Events*, p. 192-193

イエス様に、あなたのちりを明け渡しましたか？ あなたの失敗、罪、そして傷ついて壊れたところをイエス様に明け渡しましたか？ すべてを彼に明け渡しさえすれば、彼はちりで奇跡を起こすことができるのです。

(スライド23－イエス：あなたのちりをください)

懇願

皆さん、今日イエス様は、釘の傷がある手を差し出して、「あなたのちりをください」と言われます。何と名誉ある招きでしょう！ 彼にちりを差し出しましょう。必要としている心からの本当の砕けた心のちり。心は、「はい、主よ。あなたともっと近く共に歩みたいです。あなたのように変われたら、あなたが私に与えて下さったのと同じ愛で他の人たちを愛することができます。あなたに召された高潔なクリスチャンになりたいです。でも、私があるあなたに捧げられるものは、全て壊れており、欠陥があります。だから私はあなたに私の失敗、痛み、そして涙を捧げます。私の最善の努力でさえ、ちりだけですが、あなたに私のすべてのちりを捧げて、陶器師の手で粘土になりたいです。主よ、私の心の玉座はあなたのものです！ あなたのおっしゃる通り、私はあなたのものです。」

もしこの祈りが今日のあなたの願いであれば、終わりのお祈りにあたり、共に立ち上がりましょう。